

審議会等会議録(概要版)

審議会等の名称	令和5年度第1回山口市公共交通委員会
開催日時	令和5年5月29日(月曜日)14:00~15:30
開催場所	山口総合支所 第10、11会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	田中委員長、鈴木副委員長 他18名
欠席者	柴田委員、古谷委員
事務局	山口市都市整備部交通政策課
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度事業報告・評価について 2 令和4年度決算について 3 令和5年度事業計画について 4 報告事項 5 第二次山口市市民交通計画の中間見直しにあたって
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和4年度事業報告・評価について (2) 令和4年度決算について <ol style="list-style-type: none"> ①歳入歳出決算報告 ②監査報告 <p style="text-align: center;">承認</p> (3) 令和5年度事業計画について <ol style="list-style-type: none"> ①山口市総合時刻表・公共交通マップ ②山口市ノーマイカーデー ③パーク・サイクル・アンド・ライド ④運転士確保 ⑤公共交通教室 ⑥クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクト(MM) ⑦山口市市民公共交通週間 <p style="text-align: center;">承認</p> <p>質疑応答</p> <p>○A委員</p>

20ページの山口式エコ通勤ですが、4キロ未満は月に四回、通勤4キロ以上が月二回で、目標が50%となっておりますけども、これをもうちょっと上げるように努力をされるといいんじゃないかと思います。通勤が4キロ以上となっておりますけども、大体何キロぐらいが目安なのかなと思います。目安と言ってもなかなか難しいとは思いますが。

○事務局

まず目標値4キロ以上の職員の実施率の目標値が今、50%となっていることにつきまして、もう少し上げたらどうかということで御質問あったと思いますけれど、実は20ページの下の表を見ていただきますと、ちょっと情けない話ではあるんですけども、令和4年度の4キロ以上の職員の達成率というところが、今現状16.8%になっております。ということで50%というところを目標には掲げておりますけども、なかなか少しこれをさらに上げていこうというところまではまだ状況としてはないのかなというふうに考えております。原因としましてはノーマイカーデーの取組が職員の中でも少しマンネリ化してる部分があるのは確かだろうと思いますし、そういったところをどうやって改善していくかというのがこれからの課題になるだろうかなというふうに思います。

そうした中で今年度につきましては、「のるトクカード」を「つなぐカード」ということで一新しまして、カードのデジタル化ということも今年から取組を進めております。それと併せましていろいろサービスが受けられる特典店舗というのも、昨年から大幅に増加をさせております。昨年その対象店舗が33店舗だったものが、今年96店舗まで増やしておりますので、そうしたところで、もう一度市職員に取組を図っていきいたいと考えております。

それと4キロの目安ですけども、特にこれといったものはないんだろとは思いますが、職員の通勤手当の関係で、自動車通勤の手当が出るのが4キロ以上の職員だということで、そういったことも関係して目安として設定をさせていただいていると思います。

○A委員

分かりました。今、達成率が16.8%だからこれを何とか20%まで頑張ってください。

○委員長

毎月、月一回はノーマイカーデーとしてしっかりとやっていきます。それに加えて、もう一回とか、もう三回とかになっていますので、市の職員もしっかりと達成できるように、啓発を進めていきたいと考えております。

○副委員長

今のに関連してなんですけど、実際にやった人の感想とか、あるいは、こんなことちょっとやってみたら結構いいことだったなとか、そんなようなものを共有できると、新たな動機につながるのかなと思います。やった人がやっただけ、やらない人はやらないままだと多分達成率上がっていかない。少しずつ上がってるとはいえ、でも13%とか16%とかあたりをずっと続けてるのは、新たな人がやっていないんじゃないかなっていう気がするので、何かそんな方法を考えてみてはいかがでしょうか。

○事務局

これまでコロナというのがありまして少なからずそういう動きが取りづら
い部分もあったんですが、これからは、そういった取組も必要かなというふう
に考えてます。特に副委員長が言われましたように、やった方の御意見です
とかそういったものを全体へフィードバックしていくということが非常に大
切だなと思っていますので、これからの取組の中でそういう部分も考えてい
きたいと思います。

○B委員

達成率が高くなることが大変重要なんですけど、やっぱり行政の方が仕事
に遅れてもらっちゃ困るので、まずはそちらを重要視していただきたいと思う
んですけど、またこの後に出てくると思うんですけど、第2次山口市総合計画
の中でも、山口市は公共交通に対する市民の意識、満足度が低いというデ
ータがあります。平成14年から私も山口市の公共交通委員会にずっと携わ
ってるんですけども、これだけ一生懸命頑張って、コミュニティタクシーとか
も全国的にも先駆けてやったり、副委員長、F委員さん等にも入っていただ
いて相当頑張ってるんですけども、例えばガソリンについても、山口市って
いうのは、県庁所在地、政令都市の中で、平成24年から三年間で850リッ
トルぐらい、二位の山形市より100リットル以上多く、また27年から三年間
でやはり山口市が全国で一位で760リットルぐらいで、金沢市より60リッ
トルぐらい確か多かったんじゃないかと思うんですよね。

結局、最低の一位が東京で160とか180ぐらいで、山口市年間で大体ガ
ソリンを一人10万円弱使ってる、全国でトップなんですよね。やはり東京、大
阪、神奈川等が少ないベストファイブに入っているんですけども、結局、公共
交通が発達していない田舎のほう、鳥取とかもワーストのほうに入ってます
よね、東京等公共交通が発達してるところは、世帯当たり180リットルぐら
い、山口は、850リットルも使ってるっていうのは、公共交通が十分生きてな
いということだと思ってるんですよね。ですから恐らく、市の職員の方々も、当然
意識としては、公共交通を使ってマイカーを使わずにと思われてると思うん

ですけれども、皆さんが仕事に間に合うようにしておられるため、また会議にちゃんと出れたりとか、早めに帰れるようになっていうことで公共交通がきちんと出来ていないんじゃないのか、結局、ニーズに沿ったものが出来てないということがあるのでこの山口市の今までのやり方をもうちょっと考えてみないといけないんじゃないかと思うんですね。

やはり満足度が低いっていうのは、山口市も相当、全国の行政の中で頑張られてるのに、ニーズに沿ったものが出来てないということですから、そこをよく考えていくと恐らくこの達成率も上がってくるんじゃないかと思うんですね。

○事務局

B委員さんの御質問、御意見についてですが、我々の考えですけれども、まず御紹介いただきましたように市民の皆様の重要と考えているものの中の施策の中で交通というのはかなり上位のほうに上がってきております。それに比べて満足度というのはいくら下か二番目、下から数えたほうが早いぐらい低いと。こういうことで市民の皆様の期待に応えられてないという部分が非常に多いのかなと思います。

一方で、市民の別のアンケートで、年に一回以上公共交通を利用される方というのを調査してみたところ3割の方しか公共交通を使っていらっしやらないという実情もあるので、なかなか不便と感じておられるものの、実際使ったことがないよという方も結構いらっしやるのかなと思ってまして、その辺り、まず公共交通を使ってみようという取組っていうのも大切になってくるのかなと考えております。実際使ってみるとそれほど不便じゃなかったということもありますし、そもそも公共交通自体に不安だとか、分からないよっていうところも抱えてらっしやる市民の方も多くいらっしやると思いますので、そういったところを何とか越えていけるような取組も大切になるのかなと思います。

また最初におっしゃっていただきましたようにそもそもダイヤとかルートというところが市民ニーズに沿っていないのではないかなというようにもございましたけれども、その辺も、バス事業者の皆さんとは、大体月一回ぐらいのペースで意見交換をしております、いろいろ市民の皆様から寄せられた意見について、その中で対応できるものについては対応していただいているという状況でございますので、また引き続きそういった取組の中で改善に努めてまいりたいと考えております。

○委員長

今の交通計画の見直しの中で、こういった将来的なことといえますか、今、足りないところまたお話をしていけたらと考えております。

○C委員

御説明ありがとうございます。今日すごく楽しみにしてきまして、実は昨年度ですね総合計画の後期基本計画の策定委員をさせていただきまして、そのときに交通の専門として加えさせていただいて一年間山口市の交通の在り方について、議論に加えていただいたんですけど、その中で、やっぱり交通の専門以外の有識者の方も皆さん、福祉の方も教育の方も、交通が大事だっというふうにおっしゃってまして、これからの山口市のまちづくりを考えていく上で、交通をみんなが、特に若者ですとか、皆が暮らしやすいような交通にしていくことが重要だっというふうな御意見を持たれていたもので、これはもうやっていかないといけないなというふうに私自身は認識していたんですけど、今年度は、あまり政策が反映されていないのかなというふうに感じました。もちろん今、委員長がおっしゃったように、市民交通計画の改正というところで反映されていくのかなというところも思うんですけども、使っていないからそのままいいということではなくて、ぜひまちづくりのかぎになるんだっという認識のもとで取り組んでいただけたらなと思っています。

ウォークアブル推進協議会の委員をさせていただいて「てくてくやまぐち」に参加させていただいたんですけど、公共交通とまちづくりって、鶏が先か、卵が先かみたいな感じで、街中に魅力がないから公共交通がないんだとか公共交通が便利じゃないから街中に人が来ないんだっという争いになるようなところもあるんですけど、せっかく、街中でいい取組をされているんですけど、公共交通がほとんどプロモーションされていないなっというふうに感じました。そういうまちづくりのすばらしい取組があるときに、ぜひ公共交通を使っただけきっかけになるようなプロモーションを、せっかく子供を連れた人がいっぱい集まっているので、公共交通は使いやすいよっというふうなアピールを、その機会にぜひしていただけるような取組とか、今年度出来そうなんじゃないかなと思っまして発言させていただきました。ぜひ、今ある既存の目的地への交通手段を変えてもらうっということだけではなくて、まちづくりの上に公共交通がなっっていくんだという視点で、プロジェクトに取り組んでいただけたらなと思っします。

○事務局

昨年後期基本計画の策定が一年通じてございまして、私どもも交通の部分については参加をさせていただきまして、C委員だけじゃなくていろんな委員さんから交通のこと、御提案があっって、そうだそうだなと思っながら拝聴させていただきます。そうした中今年、公共交通委員会の事業ということで、例年と同じような形になっておりますけども、新規事業につきましては市の事業の中でも取り組んだものがございまして、徐々に、来年度予算に向けまし

でも、これから検討を深めていきたいと考えております。

今年は第2次市民交通計画の見直しというタイミングでもございますので、この場でいただいた御意見なんかも次年度以降に向けましてしっかり反映をさせていただき、計画自体のみならず、我々の予算化の部分についても検討させていただければと思います。それとウォークブルの取組の中で少し交通という部分のプロモーションが足りないんじゃないかというお話でしたけども、おっしゃるとおりなのかなと思っております。同じ都市整備部の中の都市計画課が主管となってやっている事業でございますので、今後はもう少し横の連絡を密にとる中で、交通としてもしっかり参画していければいいなと考えております。

○A委員

利便性と収益性というのを事業者の方は、事業をやっていく以上は考えられると思います。私もさっき16.8%、20%に頑張ってくださいっていうふうな発言をしたんですが、具体的にこちらから、どういうふうについていうことを言わなかったのでひとつ。一生懸命やってる市の職員の方々に、市長賞を送る、副市長がせっかくこの委員会の委員長をやっておられますので、委員長賞、そういうことを表彰して、全体的に盛り上げれば、私ももう一回やってみようっていう市の職員が増えるんじゃないかなっていうことを思いました、頑張ってください。

○委員長

職員に対するインセンティブ、いろいろあろうと思います。また、しっかりと検討していきたいと思います。実際、先ほど言いましたけど卵と鶏の話もありますが、しっかり公共交通の周知をしていくことがすごく大事なんじゃないかなと思います。乗る、乗らない、いろいろありますけどもあること自体の周知がまだまだ足りてないので、そのニーズなりも掘り起こせてないのかなって思っております。その辺もしっかりとやっていかないといけないなど。また、次の公共交通計画の見直しの中でも、しっかりと検討していきたいと思っております。令和5年度の事業内容につきまして、こういった内容で進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

それでは続いて次第の2の報告事項に入りたいと思います、よろしく申し上げます。

2 報告事項

- (1) コミュニティバス実証運行事業について
- (2) コミュニティタクシー運行促進事業について
- (3) グループタクシー利用促進事業の実施状況について

- (4)シェアサイクル実証事業について
- (5)新たなモビリティサービス調査・実証事業について

質疑応答

○D委員

5番目ですか、新たなモビリティサービス調査、これは令和3年4月から供用開始したと書いてありますが、今の実績が資料の中には見えないので、具体的にはどのような状況になっているのか分かれば教えていただければと思います。今年度、4月から令和6年の3月31日まで、実証事業を行うとございますので、このあたり何か実績を見ていただき、見直しなりされるのか、分かるようなものがあれば教えていただければと思います。

○事務局

新たなモビリティサービス調査実証事業につきましては、中身としては「ぶらやま」というMaaSアプリを運用して、県が事務局を担われており、山口市も参画して実証しています。こういう状況でございまして、この中では複合経路検索ですとか、デジタルチケットを造成しての販売ということをしております。このアプリの登録アカウント数ですけども、令和4年度末の段階で6,162件、利用ユーザー数としては4万4,975件、アクセス件数としては33万2,827件というようなところが実績となっております。今年度、引き続き実証事業ということで続けてまいりまして、さらなる自走に向けて、実証事業という形じゃなく事業が進められますように、今年度努めてまいりたいと県とも話をしながら進めております。

○委員長

事業主体が県で、負担金をうちのほうも出していただき、全体として最初山口だけで始まったんですけども、美祢とか長門とか宇部とかに広げられて、複数の経路検索の形でどうやっていけるのかっていうのをやっていこうということでございます。今お金を出してやってるのは、できれば自走でそういったものがアプリとして実装してできるようにということで今、実証を続けているという状況でございます。そのためのデジタルチケットであるとかそういったものを活用して、自走出来たらと考えてやられている状況でございます。

○D委員

利用される方の御意見なども少し拾い上げてもらいながら、実証事業ということでございますので、これが継続的に使えるような仕組みになるような形

で、今年度一年、途中でも結構です。そういう意見を少し反映しながらですね、見直すっていうのも、やり方の一つかなと思ってまた、御検討いただければと思います。

○委員長

はい、ありがとうございます。しっかりと県と協力しながらですね、どうやったらできるかという方向で、しっかりと検討していきたいと思っております。ほかにございますでしょうか。それでは、報告事項については以上ということとなります。それでは次の次第の3でございます。第2次山口市民交通計画の中間見直しについてでございます。事務局から説明をお願いします。

3 第二次山口市市民交通計画の中間見直しにあたって

- (1)これまでの計画の概要について
- (2)地域公共交通を取り巻く現状
- (3)本計画の成果指標の推移と目標値
- (4)中間見直しに向けて

質疑応答

○B委員

すばらしい計画を立てられると思うんですけども、確かに目標数値等も出てますけど、もっと必要性についてピンポイントで入れてほしいなと思います。まず一つはですね、以前この公共交通委員会で資料が出たことがあるんですけど、旧山口市の時だったか忘れてましたけど、山口市のバスとタクシーの利用率が両方ワースト3以内でした。先ほどもちょっと言いましたけども、ガソリンの購入量が高いのと、バスとタクシーの利用率が低いと。もう言わなくても分かるような結果なんですけども、こういったところをですね、もっときちんとする。現在こうこうだけど、これをどのぐらいまで上げるとかっていうふうに、進めてほしいなと思います。

山口市のデータはよく分かりませんが、山口県っていうのは、全国の都道府県の中で公共交通の充実度は確か真ん中あたりだったような気がするんですよね。ですから、山口市も結構いろんなものがあって先ほども言いましたようにニーズに沿ったものがない。また、シーズっていうところで随分遅れてるんじゃないかなと。そのシーズというところでモビリティマネジメントで37万予算がついてるんですけども、少ないなと思ってます。C委員というモビリティマネジメントプロがおられますけども、何時に乗って、どこどこに行くようになっていうことを具体的に一人一人に差し示してあげるっていうことも大切なんですけども、公共交通を利用するような、心理状態に持っていきよう

に、もっと何か、具体的なことは分からないですけどC委員はきっといい案を持たれてると思うんですけども、そういった方法をですね、皆さんにお示しできるように、もちろん私たち交通事業者もですね、最近はやってませんけど以前もうちのクリスマスタクシー、節分や、バレンタインデーにはいろいろコスプレをして、色々やってました。そのときにやはりちょっと利用率が上がって、ついついやらなくなったら落ちていくんですけども、いろんなことをやっていく。

それと、五大公共交通をライフライン化して、六大公共交通というふうに考えていただけるようにしてほしいと思うんですけども。例えば電気なんかでも、東日本大震災のときに悲しい事故があったから原発は、っていうことを言いながら、電気代が高くなってきて、やはり電気需要が必要だと思って、気持ちは分かるけどやっぱり原発推進をしていかないといけないなっていう人も多くありますし、ガスなんかでも、爆発すると危険だとか、オール電化住宅が増えてる中でもやっぱりガスっていうのもやはり必要なものっていう考え方をすると。公共交通の利用者が増えていくことで、マイカー社会からの脱却って言いますが、確かに1970年から2000年にかけてマイカーが40%ぐらい伸びて、バスの利用率は40か50%ぐらい落ちたっていうことがあります。マイカー社会からの脱却とは言うんですけど、車も持つなんていう社会ではいけないと思うんですけども、交通事故なんかも、年々減ってはいますけれども、ここ最近の山口市における死亡事故等も全て、高齢者が犠牲、または加害者になって関係してる事故です。ですから、高齢者の方がマイカーを利用せず、公共交通で移動ができる。マイカーっていうのは、人がとにかく移動しないと経済が活性化しませんので、だから車っていうのは本当に必要なんですよ。乗る世代っていうことをよく考えて、漠然とみんな公共交通乗りましょうねっていうことではなく、特にこの高齢の世代に公共交通に乗換えていただくっていう形をこの中で目標を立てていく、そしてバス、タクシー等の利用率を上げていく、そうすると、どんどんバスとタクシーを利用してくださったら、売上げが伸びてくるから、今、何で運転士不足かっていったら、労働環境じゃなくてやっぱり給与の面なんです。タクシーというのは今から50年ぐらい前まではサラリーマンの第二位の所得って言われてたんですよ。それが今では、もう年収200万以下っていう、生活保護の方よりも少ないっていうふうに揶揄されることもあるぐらい、給与がすごく厳しい状態です。入りが伸びてくると、タクシー、バスの運転士も増えてくるんですけども、そうすると皆さんのニーズに沿った形がどんどん出来てきます。そういったものを含めて、C委員の専門のモビリティマネジメントをもっと充実したものにしていこうということ、もう少し具体的にこの中にうたってほしいなと思います。

OC委員

B委員がおっしゃるとおりイメージをつくっていくってことすごく大事だと思います。昨年度山口市さんでもすごく感じのいい、公共交通のプロモーションポスターをつくっていただいて、新山口駅のサイネージでも表示していただいてすごく感じがいいなあと思ってました。ただですね、一回で終わると、そこでぷつと消えてしまうのでそれを継続的に、できれば同じテイストで続けていただくことで、山口市の優しい公共交通のイメージがじわじわと浸透していくのではないかなと。公共交通のプロモーションが一番よくないのはぷつと切れることで、あれをやってこれもやってっていうのは、逆効果になりがちかなと思いますので、ぜひそういったようなところの予算をつけていただけるとありがたいかなと。イメージ形成といいますか、みんなで支えていくイメージをつくっていくっていうところにもぜひ、お金をつけていただけるよう検討していただけるとありがたいかなと思います。

それから、私からの意見で二点、視点を考えていただきたいなと思う点があります。目標のところすばらしいなと思ってですね、すごくすばらしい目標を整えていただいているなというところが、実際の取組に反映されたときに、もう少しこれも考えていただきたいなと思うところがあります。まず一点目がですねどうしても山口市さんの市民交通計画のスタンスが、拠点間の交通は交通事業者主体でやるということを基本にされていますので、拠点間の交通についての取組が、ほとんど想定されてないというふうに感じたところです。ただその中でも支援をすとか調整をすといったようなところもありますので、ぜひ、拠点間の交通について考えていただけたらと思います。具体的にどういふところかと申しますと、公共交通のネットワークをつくっていくとか、維持確保していくというところの鉄道とか、コミュニティバスとか、その単体ですね交通手段に限った取組を挙げられてると思うんですけれども、共同経営までいかななくてもですね、バスと鉄道を一緒に使えたら本数を上げなくても、利便性って高くなると思うんですよね。中心部に鉄道で来たけど歩き回ったらちょっと駅まで行く体力ないからバスで帰ろうかなとか。このあいだ私も子供連れて、新山口から来て、まさにそんな感じですね。子供が一の坂川からもう山口駅まで歩いて帰りたくないっていうんでバスに乗って帰ったんですよね。途中で中央公園を見てたら何か芝生があるから走り回りたいと言ってたんですけど、ちょっと降りたら別の料金計算になるから、そのまま新山口まで行っちゃおうかっていうふうになったんですけど、そこで乗り降りとか自由に出来たりしたら、すごく山口でもっと活動しやすくなるなと思います。それは運転士不足の現状でも、本数を変えなくてもできるような取組で、利用者の利便性が向上するという取組だと思いますのでぜひ、拠点間の交通と交通手段間の連携といったようなところを少し加えていただきたいというのが一点と、先ほども申し上げたんですけれども、にぎわいのあるまちづくりに対する施策、コミュニティバスの交通体系に沿った見直しだけでは

なくてですね、まちなかのネットワークがちょっと分かりにくいというような意見も、ウォークブル推進協議会のほうでもいただいておりましたので、行きやすくなるような、分かりやすいようなネットワークといったようなところに向けて、すぐに変えるというのは難しいと思うんですけど、検討を始めるといったようなところも、進めていただけたらいいんじゃないかなと考えております。それから、たちまちの懸案事項としてアンケート調査のところなんですけれども、せっかく取り組まれておられるICカードですとかシェアサイクル、それからぶらやまといったようなところの認知度とか、利用経験といったところも、つけ加えていただけたらいいんじゃないかなと思いました。

○事務局

C委員の、御質問、御意見ございましたけども、まず拠点間の交通事業者任せではなく、ある程度、ほかの交通モードとも含めてネットワークで考えるべきじゃないかということで、我々も確かにそういうふうに思いますので、そういった視点も加えて今後検討をしていきたいというふうに思っております。ちなみにですけども今年度から総合時刻表に、阿東地域に限ってなんですけども、バスと、JRの時刻表を一緒のページに表示するやり方をしております。たまたま平行路線ということもありましたので、利用される方の都合のいい便に応じて、在来線だったり、バスだったり選んでいただく。加えて今年度から特急おきの特急料金の助成というのも始めておりますので、そういった形で、使いやすいものを使っていたらいいということで、交通モード間での利用を促進しているところでございます。拠点間だけではなく各交通モードがトータルでつながるような形ということの御提案もございましたので、乗換え環境といいますか、結節点機能といいますか、そういう部分も含めて今回の計画の中で検討してまいりまして、にぎわいのあるまちづくり、分かりやすいネットワークっていうところも含めて考えていきたいなと思います。

アンケートについては、おっしゃるとおりですので交通系ICカードですとかシェアサイクル、ぶらやまといった新しい取組についても市民の皆様の御意見をお伺いできればなというふうに考えております。B委員さんの御意見に対しましてですけども、今日のところは我々の課題感というところを皆様にお示しして、他に検討する視点はないですかねというのをお聞きする場面ということで、資料のほうも十分に揃えてはなかったんですけども、今後の検討にあたっては、色々皆様の御参考となるような資料も含めて、お示ししながら、議論を深めていけたらいいなと思います。

それとモビリティマネジメントが大切ということで、乗る方の心理状態、こういったものを分析していくことが大切じゃないかという御意見でございましたけども、私どもも、そのように思っております。なぜ公共交通を使っていただけなのかっていうところ、その心理状態だったり、障壁となっているよ

うなもの、そういったものの分析、そういうことをやっていくことも今回の見直しの中では必要ではないかなと考えております。

○E委員

学校が苦手な子供たちやマイノリティな子供たちの支援をさせていただいておりますEと申します。そもそもこのアンケートっていうのは、どういった方を対象に意見を聞く想定でつくられているのでしょうか。

○事務局

このアンケートにつきましては、現在の計画を平成30年につくってるんですけども、その時も大体同じようなアンケートをしまして、今回の見直しに当たって、計画を進めていく中で、皆さんの意識がどのように変わったのか、その現状の立ち位置を確認する上でアンケートが必要ということで実施を予定しています。

○E委員

誰に配りますか。

○事務局

市民の方を対象に無作為に5,000名を抽出して送ろうと思っております。

○E委員

無作為ということは、使っていない方のほうが今までのデータを見るというわけなので、使っていない方に公共交通機関を使ってほしいという目標であればこのアンケートは有効になりますけれども、今使われてる方にさらにサービスをよくするためには、このアンケートでは不十分かなと、配る人をもっと絞り込んだほうが、今後参考になる意見が出ると思うんですね。私個人の意見としては、公共交通機関の中で、アンケート用紙の色を変えて配ってみる。何色だったら、使っている人からの意見だったなっていう形、結果が見て分かるようなものに変える、または年代が、15歳から75歳なんですけれども、確かに、60代以降の方は紙ベースのアンケートのほうが伝えやすいですが、10代、20代、30代、40代は、ネットのほうがかなり回収率上がると思うんですね。国勢調査も今ネットでできる時代ですので、ぜひここはURLなんかをくっつけていただいて、インターネットでも回答できるような方法をとっていただけたらいいかなと思います。

○事務局

このアンケートにつきましては市民の方を対象に全般的な御意見をお伺い

させていただくということで実施したいと考えておりました、ターゲットを絞り込んでということでお話がございまして、実は昨年、コミュニティバスにつきましては、調査員を乗せてアンケートを実施しておりましたり、徳地の生活バスについてもアンケート調査を実施しておりました、そういう形で別途やらさせていただきますかと思っております。回答にあたって、ネット環境とかを利用してはということでしたけれど、我々としてもせっかく送るアンケートですので、回収率をよくしなければいけないということで、インターネットを介しての回答というのもできるように予定をしております。

○A委員

市の方針としてよく言われる、AIを活用した生活、それからスモールシティですかね、よく分からないんですけど、便利が悪い郊外より街中に集まって生活しようっていう政府の方針に基づいてやっておられそういう方針を示されてると思いますけども、私は宮野なんですけど、足が不自由なんで自動車っていうのが絶対必要なんですよ。じゃあ、車をやめたらどうなるかっていったら、食品なんかも購入するっていうのはほとんど無理なんですよね。じゃあ街中に出るか、家を売ってどういうふうな生活になるかっていったら、家、土地を買って生活するっていうのはなかなか無理なんですよ。集合住宅が街中にあるかって言えば、ないじゃないですか。だからスマートシティっていうのとかAIを活用して生活が便利になりますよと一生懸命やっておられるけども、AIとかスマートシティというのが公共交通にどういうふうな利便性が良く、活用出来ていくかっていうところをどういうふうにお考えになっておられるのかお聞きしたいんですけども。

○事務局

少し難しい話ですけども、AIの活用なんかは、資料のほうにも書いてありましたが、例えばタクシー配車アプリで、人のオペレーターを介さずにAIのほうで経路を決めたりとか、迎えに行く時間を決めたりとか、そういう技術が実際にもう出てきておりますし、そういったものが交通の部分でも課題を解決する一つの助けになっているケースもあるんじゃないかなというふうにご検討しておりますので、せっかくあるものなので、もし使えるのであればそういったものを活用して、交通についても検討していくべきだろうなと思っております。

それとスモールシティ、コンパクトシティですが、難しい話ではあるんですけども、いわゆる我々の地域公共交通計画、そういった計画については、車輪の両輪として、立地適正化計画というのがあって、そちらはコンパクトシティというまちづくりを目指すというような計画になっております。そういったものと連動しながら、立地適正化計画につきまして公共交通計画の Spann より少し長い計画なので、徐々にコンパクトなまちづくりを目指していく計画にな

ってしまして、一方で公共交通計画については、コンパクトなまちづくりというのをネットワークでつなげていこうというところで、メリットとしてはそういった集約型の都市構造になっていけば交通に係るコストが削減できるということもあるんだろうと思いますけれども、現状としてはやはり交通というのは、人にとっての、血管だろうと思いますので、そういった部分で、しっかりと交通弱者と言われる方も含めてネットワークを維持していくのが大切になってくるのかなと思っています。

○A委員

一言だけ、移動の手段がなかなか難しい人がおられるんですよね。やはり障害者もそうなんですけども、高齢者に優しいまちづくりってよく言われますけども、高齢者が一番何が必要かっていったら、移動の手段じゃないかと思うんですよね。買物に行くとか、お医者さんに行くということもありますので、まずそこを中心に、市の方針で頑張ってもらいたいというふうに思います。

○F委員

見直しに関して、アンケートの細かいことはまたメール等で申し上げますが、見直しに関して、ぜひお願いしたいことを一つだけ申し上げます。計画は商品ですから、驚きがなかったら、意味がない。山口市はだいぶ昔だと思いますけれども、コミュニティバスが始まった頃ですかね、日本全国をびっくりさせて、市民もコミュニティバスで驚きを持ったことがあるんですね。計画というのは驚きがなければ意味がない。様々な市民、役所任せじゃなくて、市民が動いて、いろんな地域でコミュニティタクシーをやろう。当初の山口市市民交通計画は驚きを持って市民に受けられたし、全国的に大きな驚きをもたらしたと思います。今回の見直しは、その当時よりももっともって厳しい中において、どういう驚きを市民や全国にとどろかすのか。そのことが出来なければ、見直すこと自体に意味がないかもしれません。先ほど、C委員から御指摘がありましたが、基幹交通なんて、どこまでもつか分からない。そういう状況の中で、鉄道とバスがどちらも共同経営で使えるような形、差額があってもいいんですけども、そういう工夫なんかも必要で、これは一つ驚きだなと私は思いましたが、アンケートに基づいた市民生活においても驚きがなければ、これで安心だねって思えるような、市民委員の方々にもそういう驚きを提供出来なければ、実は、見直す意味がないと、そういう覚悟で見直していかなければならないのかなあとと思います。

一点だけ、私今日、新山口で待ち時間が40分ぐらいあってこれはかなりあるので、検索したら簡単に出ますね、グーグルマップで見て大殿であれを食べたいなんて思って行き方を考えると、日赤入り口までバスがあったんです

670円。列車が240円、まあいいか、特急おきに乗ったと思おうかと、たまには防長交通もと思って乗りました。でもこんな市民はそんなにおられないと思います。でも、そういう選択肢も大切ですよ、そういうことが市民の人ができるようになったらそれはそれで一つの面白いことかもしれません。これは私個人の経験で、一つの事例を言いました。つまり、言いたいことは、驚きを持って市民や全国の人に、そういうことかかっていうようなそういう見直しをしないと、これからの厳しい中では、意味のある見直しができるのかなって思います。アンケートの中にも、それから、計画策定に向けてですね、みんなで頑張っていくかというふうな考えます。

○副委員長

第2次の市民交通計画中間見直しということなので、中間というあたりのところからいうと、基本的なところは、5年前に策定したものを踏襲していくという考え方、それがベースで構わないと思うんですね。ただこの5年間ってというのは本当に大きな変化があったところです。この5年間の間に、コロナの三年間が含まれてるということで、これによって、もう人の生活の仕方、人の動きが明らかに変わった部分というのが非常にあって、これはもう視野に入れざるを得ないことです。皆さんも御存じだと思いますけれども、まずお出かけをすること自体が減っているという現実、これはもう明らかにあって、先ほども別の委員の方とちょっと立ち話をしてたんですけども、やはり、出かける動機づけみたいなものが明らかに薄れて、しかも、最近は物価も高くなって、そんな中で、買物って言っても、お出かけをしてわざわざ買物に行くというようなこともだんだん遠慮するようになってしまっているというのは実際減っているという現実であったり、あるいは、皆さんもそうだと思いますけど、私もここ三年間ぐらい最近になって復活しましたが、飲み会がほとんどない。そういう夜の行動ってのは非常に少なくなっていますよね。例えば、私は、東京ですけども、東京でも、昔は混んでいた夜の21時、22時ぐらいの電車が非常に空いている状況が続いて、今でも続いています。そうこうしている間にやはり交通需要が減っている中で、担い手のドライバーの皆さんが、離職をしたり、あるいはさらに年齢を重ねていくというようなことがあって、実は東京でも今、夜中になると、駅前にタクシーがいなかったりするわけです。そういうような状況というのは明らかに変化が出てきていますので、それを見据えた計画というのをきちっと考えていかなければいけないというのは事実です。5年前に立てた目標には届かない、恐らく届かないでしょう。今から5年後もね、最初に立てた10年後の目標には多分、届かないと思いますけれども、ただ、コロナで減った、下がったものを回復させるところの水準で満足するかどうか、この辺が、実際の目標数値はこれから議論してくるところになるかと思いますが、その辺が議論になるかなという気

がするんですね。

私は、先ほどのB委員の発言とちょっと関連することになるかとは思いますが、山口市で今までやってきたことは市民も巻き込んで、みんなで考え、一生懸命いろんなことに取り組んできたこと、地域に合わせた取組をしてきたこと自体は私は間違っていないと思いますし、全国的に見ても先進的なことを進めてきたと思いますけれども、恐らく、公共交通を使わなくてもずっと住んできた人、あるいは無関心な人への届き方は少なかつたのかなと、だからその満足度もなかなかはっきり満足だと言える人が上がってこないし、それから、知らない人は知らないまま、せっかくやってきた取組や施策も知らないままでずっと今まで来てるという面があるんじゃないかなと思うんです。そういう意味からすると、一つターゲットとして、先ほどもちょっと意見として出ましたけれども、今、現状公共交通に対する無関心層にいかにか意識してもらおうかと。マイカーから転換するとかそういう話ではなくて、マイカーはマイカーで必要な人には必要だし、それから、これだけマイカー社会っていうのが定着をしてきた中で、マイカーに合わせた社会ってのはもう出来てますので、マイカーを全面否定することは出来ない。だからマイカーから転換するというよりは、マイカーで生活してる人に公共交通の存在なりあるいは公共交通が、こういう状況下だったら使えるみたいなことを知ってもらうような施策をやっていく必要があるんじゃないかなと思ってます。ですからそういう意味で、少し過去やってきたことの繰り返しになるかもしれませんが、先ほどC委員からの御意見でもあったように、山口市では、基幹交通というのを位置づけし、それから支線なり、あるいは地域の生活交通、コミュニティ交通というものを、張りつける形でネットワークを構成してきた、その基本のところをですね、もう一度、こういうやり方で、ネットワークをつくっていくんだというあたりのところのアピールは、改めてする必要があるかなという気がしています。それは基幹交通、経営的に育てる部分については、例えば、山口市の場合は、他市にあまりない包括的に補助するような方式を持っていますから、そういう支援はそれはそれとして、やはり、基幹交通は基幹交通として、今後、育てていくという意味を見せる。結節点、やはり、基幹交通を育てる中では重要になってきますのでその結節点を上手につくり込んでいくといったようなことを改めて見せていきながら、過去やってきて、これは、そのまま続けていくんだからそれだということではなくて、改めて見せていくべきところは見せていく必要があるんじゃないかなと思います。そんなことである程度ターゲットを無関心層であったり、もう少し公共交通のことを知ってもらえれば公共交通を上手に使える層。高齢者だけじゃなくて、例えば、文章の中にもありましたけど、子育て世代であったり、そういうようなところへの重点的なアピールができるようなものにしていく必要もあるかなという気がします。

アンケート調査について、細かいことは細かいことでもしかしたらもう少し気がつくかもしれないんですけども、一つだけお願いしたいことがあって、アンケートの案の6ページのところに、路線バス等を利用されていない理由は何ですかという設問があるんですけども、これについてですね、できれば、二つに分けていただきたいです。というのは、この設問だと、公共交通を利用しない人は、1か2につけたらそれで終わっちゃうんです。つまり、利用しない人は利用しないで終わってしまうんですけども、路線バスを利用されていない理由のところには、路線バスを、もう少しこの1と2と3と、それからもう一つ、ざっくりとした聞き方の設問をして、そこでまず利用されない理由というのを聞く、次に、路線バス等を利用するとしたら、不安なこと、あるいは、ちゅうちょするところは何ですかというような、ちょっと表現はいつでもいいですが、そういったような設問にさせていただいて、この4以下の具体的な障害になるような理由を聞いていただけると、何をすれば利用していただけるようになる可能性があるかあたりのところが、もう少し見やすくなるのではと思います。いろんなところでやったアンケートでも私の感覚なんですけども、自動車、自転車と自分で移動できる手段があるっていうのを一緒に入れてしまうとそこに丸をつけると、これで終わっちゃうんです。見えてこないことがたくさんあるので、ここはぜひ、二つに分けていただくとありがたいなと思います。

○事務局

アンケートについては副委員長の言われるように、修正したいと思います。おっしゃるとおり今どういう状況であれば利用してもらえるのかですとか、使わない理由として何か不安であるとか、何を改善すればいいのかっていうところ、我々のほうで把握できるような内容を含めていきたいなと考えております。

○委員長

本日、色々御意見いただきましたけども、アンケートについては、最初に実施をすることです。また気づきがあれば事務局のほうにお願いをしたいと思います。

○事務局

アンケートに関する御意見、とか、御提案につきましては、出来ましたら6月の中旬ぐらいまでにお返しいただくと助かります。よろしく願いできればと思います。

○委員長

	<p>それでは、市民交通計画の中間見直しについてはこれまでいただきました皆様方の意見を踏まえまして、次回二回目の公共交通委員会の中で、しっかりと議論を引き続き行っていきたいというふうに思います。それでは、これを持ちまして本日の会議終了といたします。</p> <p>○事務局</p> <p>本日は長時間において御審議をいただきまして、誠にありがとうございました。以上を持ちまして、令和5年度第一回目の山口市公共交通委員会を終了いたします。本日は、大変お疲れさまでございました。</p>
会議資料	令和5年度(第1回)山口市公共交通委員会議事次第 他
問い合わせ先	都市整備部 交通政策課 TEL 083-934-2729